

【オンライン】社会貢献型企業(理念経営×SDGs)へのシフト

～ウェイアンドアイフォーラム 第13・14回～

Way&I Forum

開催日時:【理論編】 2020年 9月24日(木) 13:30-15:30

【実務編】 2020年10月16日(金) 13:30-15:30

参加人数: 37名(2日間のべ人数)

主催運営: 株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 粟野 智子



【ウェイアンドアイフォーラム、初のオンライン開催!!】

新型コロナウイルスは、私たちにどのような問いを投げかけているのか。

当たり前だったことができなくなってしまった状況の中で、これからの時代にどのような企業経営が求められるのか。

CSR、サステナビリティ経営研究の第一人者の神戸大学 副学長 國部 克彦 教授と

SDGsアワード 第2 回最優秀賞受賞 株式会社日本フードエコロジーセンター 高橋 巧一 社長と共に、

これから求められる企業の在り方を探究しました。

SDGs理論編

2020年 9月24日(木) 13:30～15:30

最初に理念経営とサステナビリティ経営が、なぜ関係するのかという点について、弊社代表の粟野より問題提起をさせていただきました。10年間の理念経営に関する研究会やフォーラムからの気づきをもとに、なぜ、今回、SDGsを取り上げようと思ったのかをお話しをさせていただきました。



「創発型責任経営」

神戸大学 副学長 経営学研究科 教授 國部 克彦 氏

「責任をどのように捉えるか」という國部先生の問いかけからスタートしました。

責任の捉え方によって、新たな価値が創造されるかされないかが変わってくるという点が、興味深かったです。その上で、理念企業における事例をご紹介いただきました。

事例は、ご参加者の皆様に、非常に参考になったようです。

「まだ自社で取り組めてなかったことがあることに気づいた」という声が聞かれました。

また、事例の内容から、今後、いかに社員の主体性を引き出していくかが課題だと感じられた方も多かったようです。

～ご参加者の気づきから～

- ・世の中では、どこの会社も後付けでSDGsをやっているように見えるが、本気で取り組み、利益がその結果として付いてくるような運営をすべきだと感じた。
- ・トップダウンとボトムアップ、両方を使いながら目的達成を目指すことが大事だと感じました。
- ・責任という言葉に英語と日本語で定義の差があることや、双方向の無限責任を価値創造に結びつけることの大切さ、社員の自主的な取り組みを通して、それを実践されている企業様の例を伺うことができ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。
- ・これまでモヤモヤしていたものがスッキリし、腹落ちしました。責任を果たした結果の価値こそが、これからのブランドですね。これは企業のみならず個人の生き方としても同様に思います。「無限の責任」という考え方は初めてでしたが、先生のお話の中でも触れられていた「赤ちゃんと母親の関係」は「無償の愛」なので、通ずるものを感じました。
- ・責任の双方向性やポジティブなとらえ方をご紹介いただき、大きな気づきがありました。

「食の循環によるSDGs実践経営」

株式会社日本フードエコロジーセンター 代表取締役社長 高橋 巧一 氏



前回の國部先生の内容を受けて、高橋社長の講演からスタートしました。高橋さんは、「食品ロスに新たな価値を!」をテーマに、食の循環によるSDGsの実践事例をご紹介くださいました。お話は、実務的でイメージがつきやすく、皆様、感動されていたようでした。質疑応答では、「SDGsは、ボランティアで取り組むものではない。それだと、持続可能な取り組みにならない。社会的課題解決のテーマを事業化し、継続的に取り組んでいくことが重要である」という気づきがあったようでした。また、SDGsの取り組みにより、どのような効果があったかという点について、高橋さんは、次のように語りました。「私たちは、創業以来、一回も新人募集広告を出したことがない。それは、志のある若者が次々と、どうせ働けならこういう会社で働きたいと門をたたいてくれるから。3Kといわれる職場だと思えますが、なんと定着率は100%なんです。」さらに、SDGsアワードを受賞したこともあり、海外の企業からの問い合わせや一見、事業とは関係のなさそうな企業からの問い合わせもひっきりなしに来るのだそうです。それに応えることで、今までの仕事とは全く異なる新しい取り組みがスタートすることも多いということでした。まさに、國部先生が提唱する創発型責任経営だと感じました。



「SDGsと理念を活用したイノベティブな組織づくり」

株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 粟野 智子



最後に、ウェイアンドアイの粟野から「SDGsにつながるイノベティブな人と組織づくり」というテーマで話をさせていただきました。特に、重要なのは、志、WHY(存在意義)です。コロナという大変な時代の時だからこそ、一度立ち止まって、自分達は、何のために存在するのかということを考えることが、今求められているのではないかと問題提起をさせていただきました。その上で、自分たちの周りにある社会や環境などの身近な問題を感じとり、解決策を形にしていくイノベーションプログラムの実例を紹介させていただきました。



～ご参加者の気づきから～

- 粟野さんの講演で「社会課題の解決という理念に対する共感が、自社の社員だけでなく周囲にも伝われば、多くの人や組織を巻き込み、好循環が生まれていく」という点が印象に残りました。
- CSRが本来の意味から外れ、ボランティア的な要素に寄ってしまったのに対し、SDGsは本業とどう一致させるかに重きを置いていると感じました。
- 会社の社会貢献が社員にとってはやりがいとなり、好循環となって事業の拡大につながるのだと感じました。高橋さんの「1社あたりのロスを減らす一方で、紹介で取引先が増えていく」というお話が印象的でした。
- 私達人間は生きているというより、活かされているという言葉の方が合っている気がする。今というこの瞬間に、この時代に、この地球に、全てに感謝しながら生きていきたいです。そして全ては私達に還ってくることなんだ!ということを感じて行動していきたいです。

【クロージング】

今回のウェイアンドアイフォーラムは、初めてSDGsにフォーカスした企画でした。理念経営を推進する企業では既に実践されていることも多いですが、改めて、立ち止まり、考え直してみる良い機会ではないかと感じました。今までの事業ややり方は異なる新たな事業ややり方が生まれてくる可能性を感じました。今後もSDGsをテーマとしたフォーラムを継続します。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。